

1 取組・活動名

「障害者理解の促進・障害者スポーツ、企業と連携した協力授業」

英語の授業でのボッチャの紹介、パラリンピアンを題材とした道徳の授業、東京都教育委員会の映像資料を用いた障害者スポーツ(ボッチャ)の理解、障害者アスリートの講演・実演・体験(ボッチャ)、民間企業と連携した授業等を実施した。

2 取組・活動のねらい

- スポーツマンシップ、不屈の精神、たゆまぬ努力など、アスリートの生き方に目を向け、自分の生き方を考えさせ、人間尊重の精神を培い、心のバリアフリーを進める。
- パラリンピックスポーツを通じてインクルーシブ(障害者も健常者も共に生きる社会)な社会を創出する
- 多様な個性をもつ人々との共生のあり方や、共生社会を実現する上での問題を考えることを通して、共生社会を実現するために自分ができることを具体的にとらえる。

3 教育課程上の位置付け

「英語・1時間」「道徳・3時間」

「総合的な学習の時間・1時間」「特別活動・1時間」

4 実施上の工夫

- ・ 東京都教育委員会の映像資料「広げよう！障害者スポーツ」を活用したり、英語や道徳の授業でボッチャについて理解したりした上で、ボッチャ日本代表選手の講演・実演・体験に臨めるようにした。
- ・ 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など横断的に障害者理解教育を行い、より効果的に実施できるようにした。
- ・ 障害者理解教育のまとめとして、パナソニックとの協力授業を行い、「共生社会」の実現に向けて自分には何ができるかを考えさせた。

5 本取組・活動の内容

英語「Let's learn about the Paralympic Games!」



- ・ 3年生を対象に、パラリンピック競技の中でもボッチャを取り上げ、そのルールを英語で説明し、理解する内容の授業を実施した。
- ・ パラリンピックにはほとんどの生徒が関心がなく、リオデジャネイロパラリンピックの映像を観るところから始めた。
- ・ ボッチャを知る生徒もほとんどいなかったので英語の学習のみならず、ボッチャの競技の理解にもつながった。

「ボッチャ日本代表選手の講演・実演・体験」



- ・ 東京都ボッチャ協会の方、日本代表強化指定選手に來校いただいた。
- ・ 東京都教育委員会が作成した障害者スポーツのDVDを全校生徒で視聴し、あらためてルールを確認したり、道徳の授業では東京都から出されている「ボッチャ」という題材を扱ったりして学習を行った。

生徒の感想から 「自分の周りの良いところを探してください」という言葉が印象に残りました。そこを探すことでもっと友達との仲のよい関係が築いていけると思いました。

「企業との協力授業」



- ・ 本校の教育理念が「共生」であり、この企業と行う授業のねらい「多様な個性をもつ人々との共生のあり方や、共生社会を実現する上での問題を考えることを通して、共生社会を実現するために自分ができることを具体的にとらえる。」を達成することが、2学期を中心に行ってきた「障害者理解の促進」のまとめになると考え、実施した。
- ・ この企業の工場で障害者が働いている映像資料などから共生社会実現のために自分には何ができるのかを考えた。

6 成果

- ・ パラリンピックや障害者スポーツについて身近に接することで、特別なものではないと感じることができた。またパラリンピアン生き方を知ることで、自分の生き方を振り返り、他者を尊重しようとする姿勢が身に付いた。
- ・ 東京2020大会で、学区である晴海地区に選手村ができることを踏まえ、実際に生徒が障害者と接するときどのように対応すべきなのかを考えることができた。
- ・ パラリンピック教育を通して、障害者を特別視せずに接しようという姿勢が身に付いた。